

The Challenge of Global Aging

E09008 福西まや

人口高齢化の2つの要因

①出生率の低下

→若い人口が減少

②寿命の延長

→高齢人口が増加

高齢者率 19世紀まで:人口の4~5%以下

現在の先進国:22% 2040年:31%

Global Aging

- 政府予算や生活水準の上昇、世界経済の安定において大きく、かつ恒久的なインパクト
- 10~15年前にpolicy issueであると認められたばかり
- 社会が若者に重い負担を与えずに高齢者の生活水準を保つことができるかが課題

先進国

最も高い関心は、
上昇していく政府の給付金プログラムの財政コスト

多くの国でpay-as-you-go(源泉課税方式)の
公的年金システムを採用

→◎労働者:多、退職者:少

×出生率の崩壊、寿命の延長＝継続不可能

高齢者が受け取る額を大幅にカットする国も
その他、・給付金の構造改革 ・退職年齢引き上げ
・投資年金システムの拡張

途上国

「豊かになる前に高齢化してしまうのでは」
という懸念

一部の人しか年金制度の元で給付金をもらえないなど、制度が高齢化に追いついていない国も

→家族の支援に頼る

→少子化による家族の縮小で、難しくなるのでは

Global Aging の対策

移民受け入れ: オーストラリア・カナダ・アメリカなど、
人口的・経済的に大きな強み

出産奨励: 給付金や保育援助・有給性の育児休暇・
仕事の保障などの政策
女性が仕事と子供のバランスを取りやすく

→ 日本は???

GAP index (Global Aging Preparedness Index)

目的: 押し寄せる高齢化の波に対する各国の準備に、より包括的かつ現実的な評価を与えること

- ・主な先進国と、経済的に重要で十分なデータが得られる新興国、計20カ国をカバー
- ・2040年までの公的給付金 (public benefit) の費用の合計と年齢別の世帯収入の合計の見積もりを調査

GAP index 2つの指標

- ①fiscal side (財政的側面): 高齢者給付金の費用や、それをどうやって賄っていくのかに関して
- ②adequacy side(???): 非高齢者と比較した高齢者の生活水準や高齢者のセーフティネットに関して

一定の基準を設けていない

→各国が最終的にどうなるかを予想するというよりも、彼らが今どこに向かおうとしているかを示す目的

GAP index

“高齢者”は60歳以上の人、
“非高齢者”は60歳未満の人、と定義
→60歳は最も退職年齢に近い

各国のパフォーマンスを絶対的な標準値でなく、
国同士を比較して計る

→労働者の負担がより少なく、
退職者の生活水準がより高い国が、
Global Agingに対する準備が整っている国



The Global Aging Preparedness Index

炭原 美波

The Fiscal Sustainability Index

Category One: Public Burden

二つの経済指標

- Benefit level
- Benefit growth

今日のEmerging market

- 低い公的負担

High-cost exceptions

- Poland
- Brazil

Developed World

カナダ・オーストラリア・アメリカ・スイス・
イギリス・日本・スウェーデン

Total old-age benefits(老齡年金)

→2040年までに15-20%

ドイツ・オランダ・フランス・スイス・イタリ
ア・スペイン

→2040年までに22-26%

- ・スウェーデン
- ・日本

韓国

- 厳しい人口統計
- 公的年金制度

アメリカ

- mild aging trend

ドイツ/日本

Category Two: Fiscal Room

3つの経済指標

1. 増税

2. 公債

3. 支出先変更